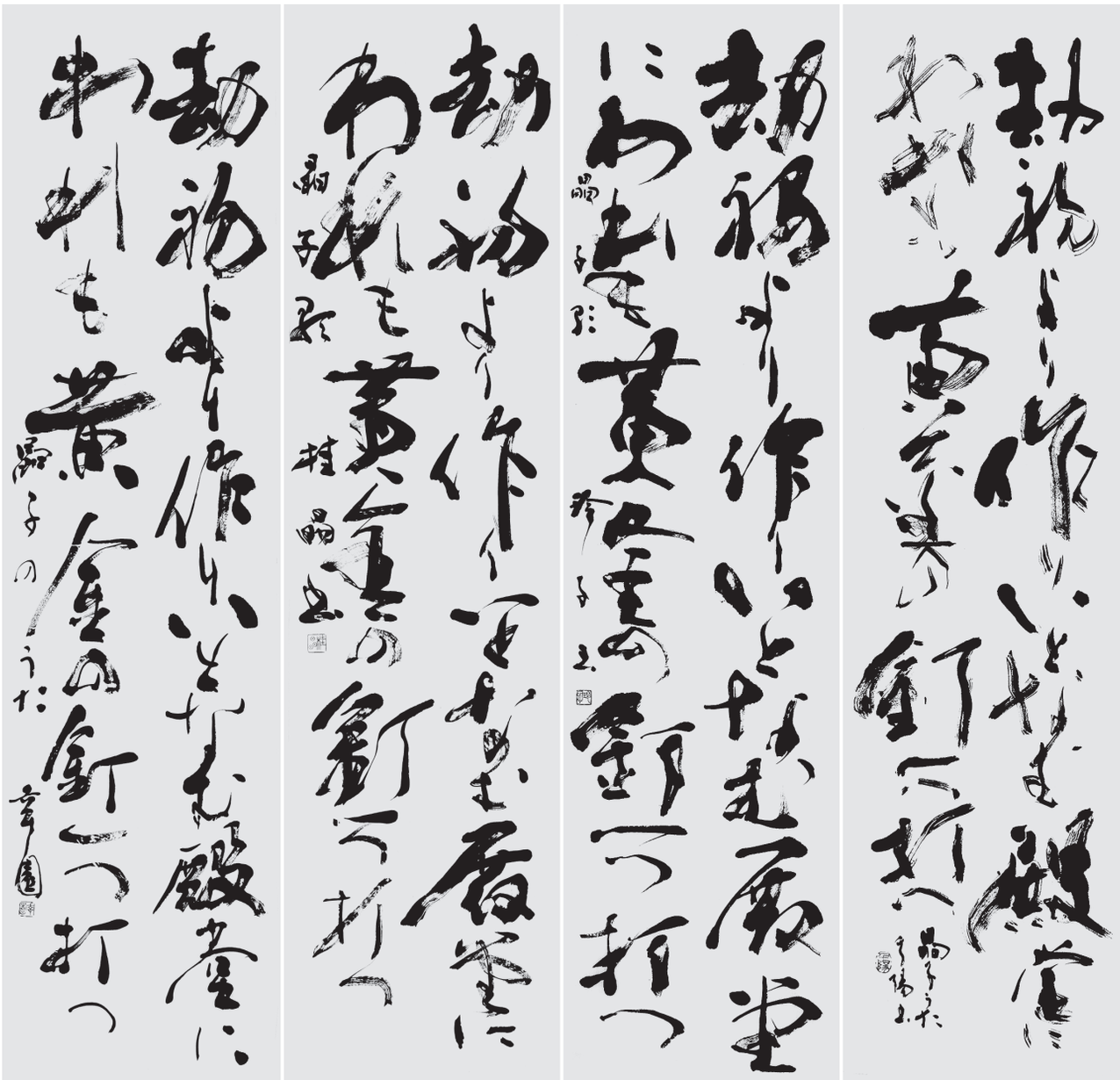
江幡太瓏先生選評



坂本千陽　推選
高い位置から躊躇なく打ち込まれた各線。勢い、潤渇素晴らしいの一言。小さいお子様を育てながら昨年の鷗亭賞、今回のグランプリ誠におめでとうございます。一つ気になるのは「つ」が「へ」に見えます。

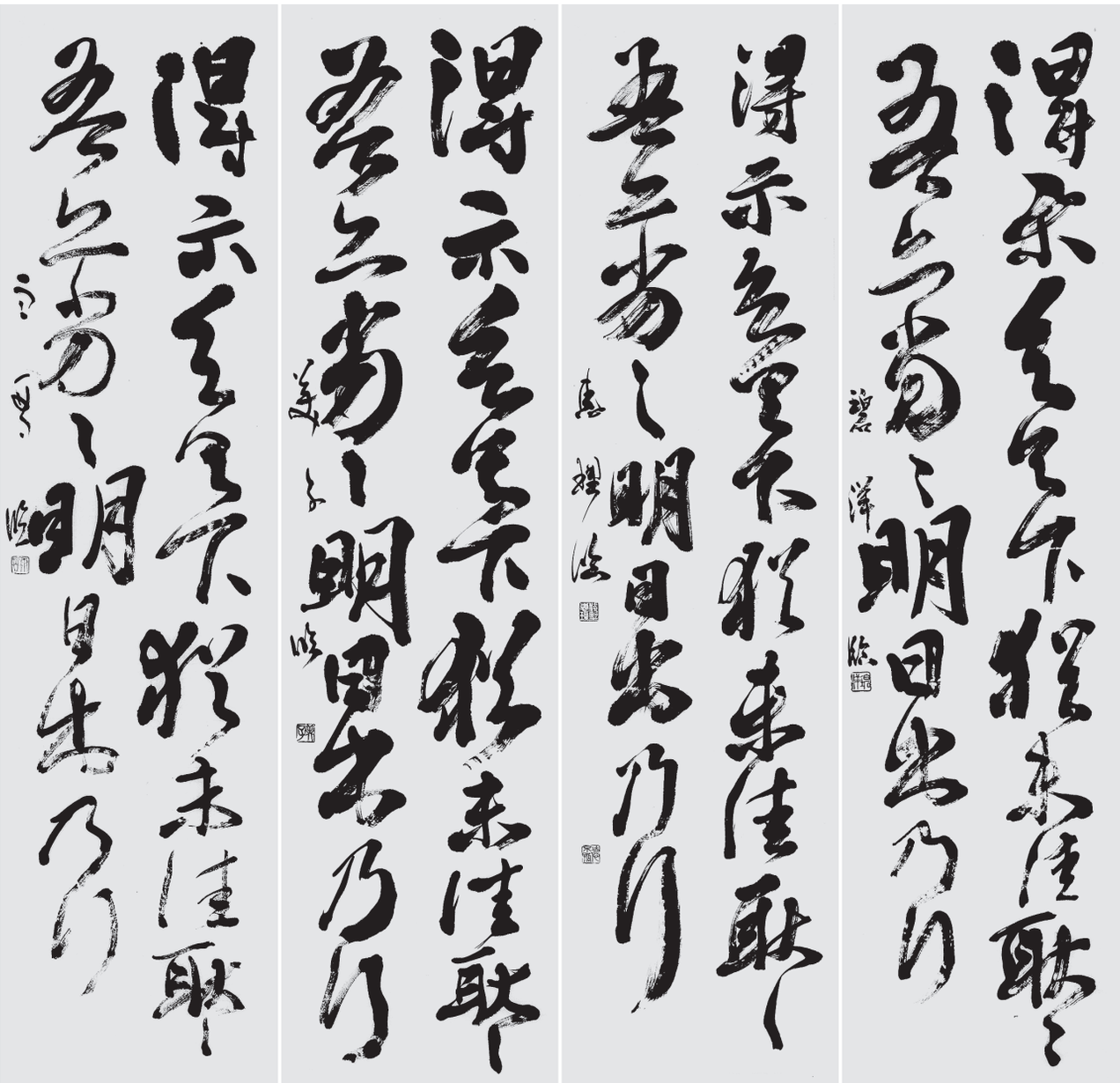
岡野玲子　推選
墨量充分なので重厚感と温かみを感じます。リズムもいいですね。欲を言えばもう何カ所か渇筆と小さい字が入っても良かった気もします。若々しい作品です。

堀桂晶　推選
静かな書き出し。だんだん気持ち、リズムが乗って来て「われも」の「れ」で最高潮に盛り上がり、最後は静かに終わる。素敵な音楽を奏でています。鷗亭先生より名前下げたい。

荒木幸園　推選
あえて草書を使わず行書で勝負。貴方も「われも黄金の」で最高に盛り上げ、見せ場を作っています。章法素晴らしいと思いますが、落款の位置どうなのでしょうか？

漢字条幅最優秀作品　（1月15日締切分）

伊藤漠仙先生選評



木下碧洋　推選
参考作品を良く観察して、運腕大きくリズム感のある作。文字の大小をはっきりとつけ、線質の柔らかさとメリハリのある、品格に満ちた逸品です。

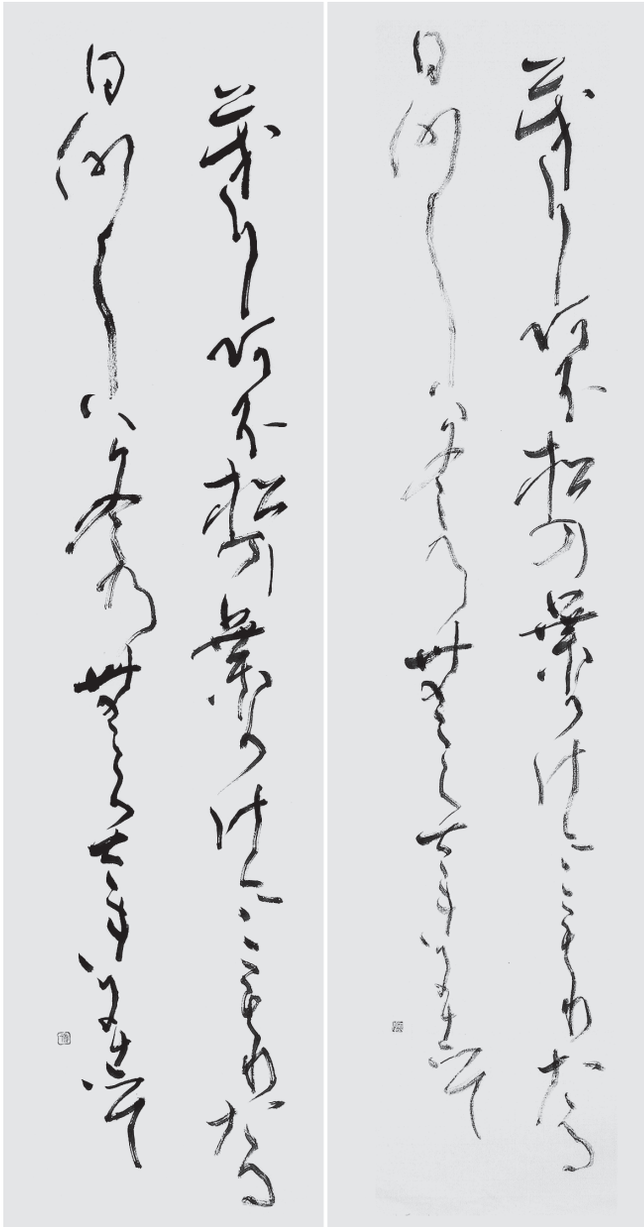
浅野恵理　推選
柔らかい筆のタッチで、一気呵成に書作した秀作です。潤渇の変化が自然で、自信に溢れ流暢な用筆で書かれた得示帖です。落款も書き慣れていて上品です。

佐藤美子　推選
「得」から勁健な連綿が秀抜で「乃行」に至る迄一貫性があり、迫力のある作品です。黒と白のコントラストがはっきりとしていて、立体感のある明るい作。

森川雨琴　推選
個性豊かな作品です。飄逸清新な趣を出して、変化の妙がある洒脱な作品です。細線と肉厚な対比が見事ですね。カスレの処理も利いています。

かな条幅・かな半紙最優秀作品　（1月15日締切分）

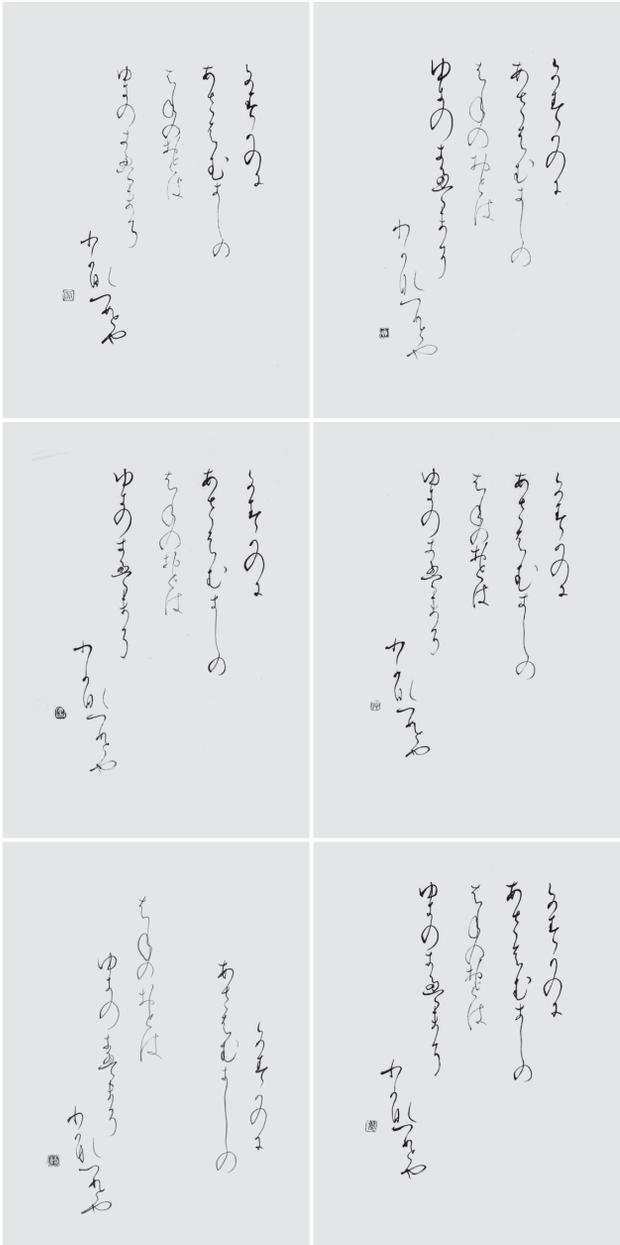
吉澤真理先生選評



上原　加代子　推選
浮沈の効いた線条。筆線に多様な表現があり魅力的です。自然な気息に乗せての緩急の変化が墨色に冴えを加え精彩ある作となりました。

樽木　博美　推選
引き締まった緊張感溢れる作です。躍動感豊かな線質が作品をひきたたせ生命力を感じます。更なる渇筆を加えメリハリが増すとより輝く作に。

赤冨士北祭先生選評



伊藤　貞子　師範
おおらかさの中に、重之集ののびやかな線質をとらえた臨書作。墨量を上方におき重心を上げたことはよい。終句での変化を盛り込めば更に佳。

中屋有里恵　六段
書き出しの豊かな浮沈の変化をよくとらえ、情感がこもった渇筆での表現と相俟って見事な作。終句での柔軟な筆遣いも読み取りが的確です。

秦　ひとみ　師範
転折をしっかり捉えながら、自在な筆遣いは重之集に通じ見事である。大小粗密の変化も良く表現し、古筆に対する筆者の思いが伝わってくる。

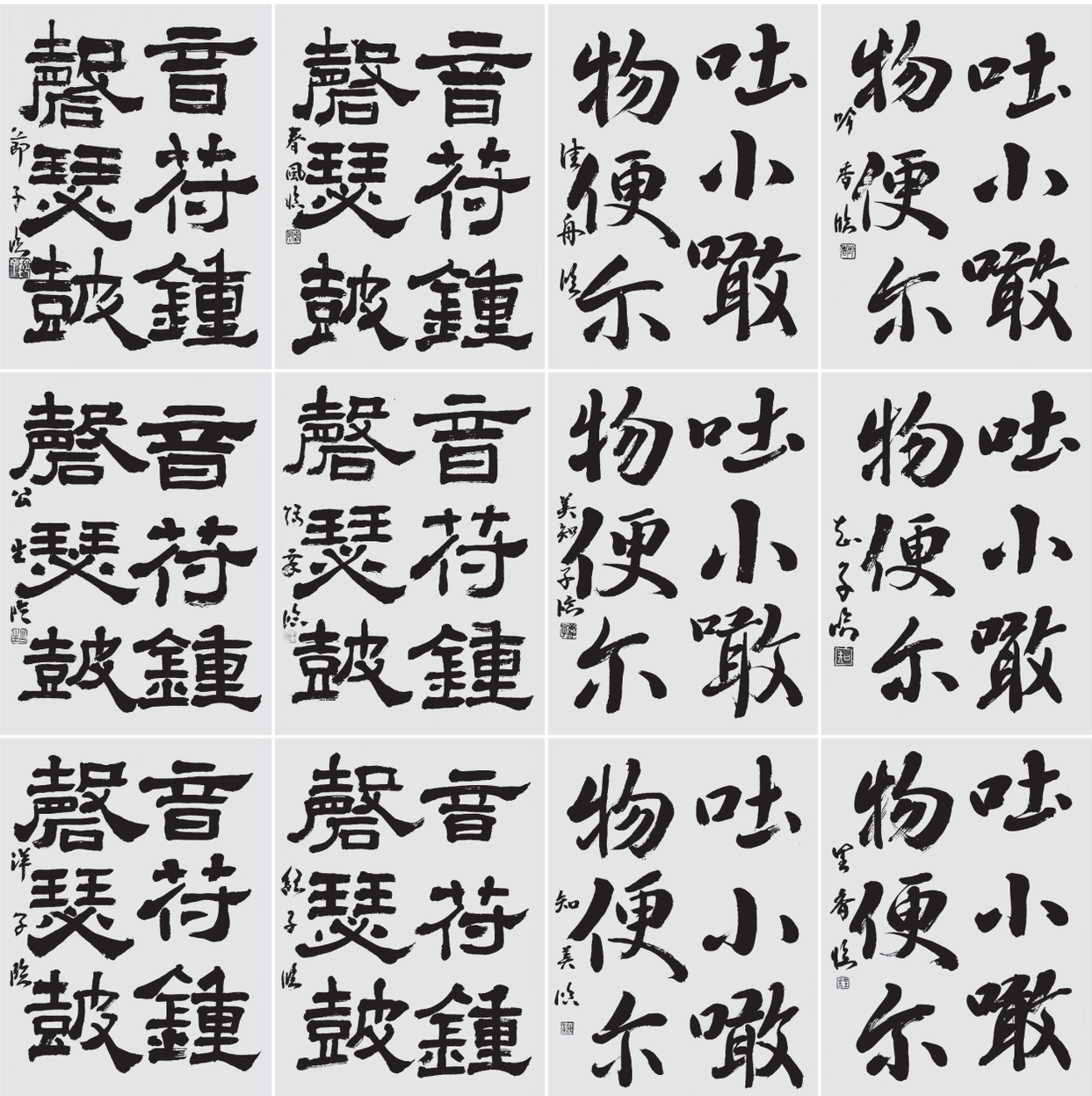
小早川里香　準六
織りなすリズムの中に優しさのこもった線が、穏やかな風景を演出している。機械漉きの半紙に、しっかりと線を食い込ませた実力を見せた作。

寺田　翠鷗　八段
流れが美しく鋒先が良く立ち紙面に食い込んだ線は見事である。かなは曲線が主体であるが「は」のように過ぎると弱くなるので留意したい。

海藤侑里子　三級
右旋回の線も筆がスッキリと動いている。平素から丁寧に臨書に取り組んでいる方だ。構成を試行錯誤することも、創作性を育む上でも大切なことです。

漢字半紙最優秀作品　（1月15日締切分）

葛西玄涛先生選評



関村吟香　師範　冷静沈着で大きな筆運びで、どっしりとした風格を感じる。少しだけある渇筆が適度な緊張感を生んで、格調の高さを更に増し、魅力満載だ。

平山佳舟　準七　肩や肘が柔らかく動いて、伸びやかな明るい線が、たくさん引かれています。紙面が大きいかと思わせるような爽快な文字を表現するお手本。

村上春風　師範　線の太さが作る文字内空間の比率が、原本に類似しています。蔵鋒をしっかり繰り返していて、この写真版の中で最も細い線でも強くなっている。

森田節子　六段　全ての線が伸びやかで、艶々している。渇筆を適度に混ぜながら、この線質は技術の高さの証明だ。元気よく、この方向で傑作を生みましょう。

高志知子　師範　所々に蔵鋒を混ぜながら、強い線をより強く見せています。重くなり過ぎないように軽やかな線も巧みに入れて、変化を自然につけた快作です。

山﨑美知子　準六　単純な動きと、細やかな複雑な動きから生じた線が巧く配置されている。例えば「小」の一画目は素朴、左右の点は煌びやかになり、調和している。

谷澤博幸　師範　直線で鋭い切れ味の横画が、強い印象になり、作品全体に緊張感が生まれ、ピリッと辛口で良いです。対照的な波磔の柔和さが、互いを高めた。

門馬公生　三段　この中で最も横長の字形として、隷書作品の王道の制作です。横への広がりは、横画が美しく澄んでいることも相乗効果となって魅力いっぱい。

小早川里香　八段　画数の多い文字の線を密にして、画数の少ない文字は、太い線で小さめに書くという極意を忠実に守った完成度が高い作だ。安心して鑑賞できる。

吉田知美　準二　とても力強さを感じる。始筆の円さは筆の弾力を生かして、柔らかな動きの直筆の線を引くために大切なことです。見事に修得し表現している。

髙野瀬紀子　準師　小さめの文字は原本の特徴をよく捉えて、表現している。大きな文字は雄大に表現されていて、小さな文字は強い線で対抗した。安定している。

新宮洋子　準二　丁寧に筆を運んでいます。紙に沈み込む線は切れ味があり、速い線に見えるほどです。運筆の速度と反対の線を引ける技量を持たれています。